（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団　松涛会	代表者	理事長　　斎藤　正樹
事業所名	サテライト・小規模多機能くるみの家	管理者	金坂　明美

法人・事業所の特徴	本体である小規模多機能くるみの家との連携体制を整え相互補完し合いながら、スムーズに複合的なサービスを提供し、安心できる環境で馴染みの職員による継続的な生活支援を行っています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人		2人	1人	2人	1人		4人		11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	個人の自己評価に隔たりがある為、項目の内容を理解できる様、職員間で話し合い振り返りを行うことで、できていないと思われる項目に関して改善していく。	職員で項目の内容や捉え方や視点が統一するまでには至っていないが、評価の振り返りと改善計画の推奨は確認できた。	外部評価の設問に内容が分かりにくい部分もある。 グループに分け話し合いを行った上で全体で話し合ったことが、読み取れられる。	自己評価項目と事業所としての評価項目を明確にすることで、利用者にどのような意味合いを持つのか職員間で話し合っていく。
B．事業所のしつらえ・環境	施設内で季節を感じられる飾り付けを行い通うことを楽しみにしていただける様、施設内の環境面に配慮していく。	展示物や掲示物は季節に合ったものに適宜交換していく等、施設内の環境面にも配慮するように努めた。	一軒家ということで、施設のかたい建物という感じとは違い家庭的な雰囲気の中で空気が色々流れている様な感じがする。	事業所のしつらえは構造上の理由の為、変更はできないが、環境美化に努め家庭的な雰囲気の中で過ごしていただける事を継続していく
C．事業所と地域のかかわり	本体と連携し行事やイベントを企画し、地域の方に参加していただき事業所にも足を運んでいただくことで、小規模多機能のことを知っていただけるよう努める。	行事やイベントの企画が本体がメインとなったことで、事業所に足を運んでいただく事や知っていただけるまでには至っていない。	自治会も新しい体制となり、昨年おこなったイベント等を継続し活動を行っていきます。	事業所の情報を発信する機会が持てる様、自治会に働きかけていく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事は可能な限り参加し限られた職員だけでなく勤務を調整しながら、全職員で関われるようにしていく。	地域の行事や活動の参加は行うことはできたが、全職員の関わりについては一度に派遣できる職員数に限りがあり、調整することが難しかった。	地域との交流も職員の調整や利用者の体調等もあり難しいところはあるが、参加できたのではないかと思う。	地域会議への参加したことにより、地域住民の方の相談できる場所であったり、受皿になれる様関わりを持てるようにしていく。
E．運営推進会議を活かした取組み	利用者の情報報告等は今後も実施していき事例検討も守秘義務や個人情報を再確認し、必要に応じて実施する。	運営推進会議で事例検討を行うことができ参加者より意見を頂くことができた。	運営推進会議で情報の共有・意見・交換がされている。 地域の７５歳以上の世帯は増加しており、地域情報の情報を共有していきたい。	運営推進会議で地域の情報を共有し、事業所をより周知されるような取組を実施していく。
F．事業所の防災・災害対策	防災訓練に地域の方や消防団の参加を求め地域の防災訓練等にも積極的に参加し地域との連携を図る。	防災教育の勉強会や振り返りを行い自主訓練にいかせることができた。地域の防災訓練にも参加することが出来たが、地域との連携を図れるまでには至っていない。	地震における津波の想定等、年に1回行うのではなく継続して避難訓練を行わないといけないと思う。　外部とのシャットダウン等の想定にも備えるなども必要だと思う。	次年度は、年2回の災害想定の加え地震想定時の訓練も実施し避難時の非常持ち出しのリストアップを行い備えていく。